

矢作川流域圏 担い手づくり事例集Ⅹ（流域圏Ⅴ）

【これまでの事例集づくりについて】

- ・中山間地の活性化を進め、過疎化や少子高齢化問題を解決に導く糸口として、持続可能な流域作りに関わる 102 団体に取材を行い、2013～2016 年度にかけて 4 冊の「山村再生担い手作り事例集」を、2017～2018 年度にかけて 2 冊の「流域圏担い手づくり事例集」を作成した。
- ・2019～20 年度は事例集づくりを休止し、流域圏懇談会 10 年誌を作成。
- ・2021 年度は学童保育木造化プロジェクト、2022 年度は錦二丁目都市の木質化プロジェクトを取材対象とし、都市を巻き込んだ流域圏づくりを支える複数の方を取材して、その立体像を描く「流域圏担い手づくり事例集」を作成した。
- ・2017～19 年度および 2023 年度には、事例集づくりでできた人のつながりを深め、広めることをめざして「事例集交流会」を開催した。

事例集のあゆみ

発行年度	タイトル	調査団体数	備考
2013 (H25) 年度	山村再生担い手づくり事例集	21 団体 (山 : 21)	
2014 (H26) 年度	山村再生担い手づくり事例集Ⅱ	21 団体 (山 : 17、川 : 2、海 : 2)	川・海の活動団体を取材先に加える
2015 (H27) 年度	山村再生担い手づくり事例集Ⅲ	22 団体 (山 : 18、川 : 2、海 : 2)	
2016 (H28) 年度	山村再生担い手づくり事例集その後いかがお過ごしですか？プロジェクト	17 団体 (山 : 17)	2013 年度の取材先を再取材
2017 (H29) 年度	流域圏担い手づくり事例集	19 団体 (山 : 12、川 : 6、海 : 1)	山村再生担い手づくり事例集交流会開催 (於・根羽村、2017.4.15) 冊子名を流域圏担い手づくり事例集に移行
2018 (H30) 年度	流域圏担い手づくり事例集Ⅱ	19 団体 (山 : 11、川 : 7、海 : 1)	流域圏担い手づくり事例集交流会 2018 開催 (於・佐久島、2018.4.14)
2019 (R1) 年度	(流域圏懇談会 10 年誌作成・担い手づくり事例集の振り返り)	—	流域圏担い手づくり事例集交流会 2019 開催 (於・岡崎市、2019.6.22)
2020 (R2) 年度			
2021 (R3) 年度	流域圏担い手づくり事例集Ⅲ	1 プロジェクト (個人 : 6、施設 : 3)	取材対象 : 学童保育木造化プロジェクト
2022 (R4) 年度	流域圏担い手づくり事例集Ⅳ	1 プロジェクト (個人 : 15)	取材対象 : 錦二丁目都市の木質化プロジェクト
2023 (R5) 年度	流域圏担い手づくり事例集Ⅴ (予定)	1 プロジェクト	流域圏担い手づくり事例集交流会 2023 開催 (於・豊田市、2023.5.19)

【今後の事例集について】

- ・2023～2025年度にかけて流域を取り上げる。

2023 海編 2024 川編（豊田市矢作川研究所創立30年） 2025 山編 voudarouka?

- ・引き続き、一つのプロジェクト（テーマ）に関わる人々・団体を取材対象とする。今年度は伊勢湾、三河湾の海の豊かさについて取り上げる。

矢作川流域圏懇談会 公開講座

no more Plastic

あなたは
マイクロプラスチック問題の
原因を作っていますか？

マイクロプラスチック問題は、人や、地球環境に、負荷を常に与える原因のひとつです。環境問題として取り上げられています。マイクロプラスチックは、ほぼ完全に分解されず、自然界に蓄積され、土壌、河川、海洋に拡散され、生態系に悪影響を及ぼすことが知られています。また、マイクロプラスチックは、海洋生物に誤食され、健康被害を引き起こすことが知られています。本講座では、初日中大学環境学部長の千葉氏を講師に招き、マイクロプラスチックの現状と、私たちの生活と関わりについて、お話しします。

講師
千葉 賢 氏
初日中大学環境学部長 教授

令和3年 7月31日(土) 15:00~17:00

開催方法 ZOOMによるオンライン開催 定員500名

参加方法 ①氏名 ②メールアドレス ③お住まいの市区町村を必ず明記のうえお申込み下さい。

お申込みいただいた方に講師が使用するZoomのURLをお知らせします。
申込期限 7月21日(水) 17:00まで

参加無料

主催 矢作川流域圏懇談会 事務局 豊田市 豊田大学 豊田キャンパス 環境学 052-46-2172

矢作川流域圏懇談会 公開講座

豊かな海の栄養源
~きれいな海は豊かな海か?~

みなさんはどんな海がきれいだと思いますか？
きれいな海は生き物が育ちやすいと思いますか？

田舎で農作物が豊かに育つには、草やリン肥料が必要のように、海においても多くの生き物が豊かに育つには、窒素やリンなどの栄養分が必要です。ところが近年、海の栄養分がどんどん減っています。このため、アサリやハマグリが育たなくなり、魚さんが大好きな餌が足りない海が日本の各地で多くなっています。今回は改正を行った瀬戸内海の取組みをご紹介します。果たして、きれいな海は豊かな海なのでしょうか？

本講座では、京都大学名誉教授の藤原氏を講師にお招きし、瀬戸内海の取組みについてお話しいただきます。この機会に、海の栄養不足について考えてみてください。

講師 藤原 建紀 氏
京都大学名誉教授

令和4年 8月20日(土) 15:00~17:00

開催方法 ZOOMによるオンライン開催 定員500名

参加無料

参加方法 ①氏名 ②メールアドレス ③お住まいの市区町村を必ず明記のうえお申込み下さい。
お申込みいただいた方に講師が使用するZoomのURLをお知らせします。
申込期限 8月18日(水) 17:00まで

専用フォーラムURL https://us06web.zoom.us/join/register?WN_SDN6e1h6TFS3MWEGRChJw

主催 矢作川流域圏懇談会 事務局 豊田市 豊田大学 豊田キャンパス 環境学 052-46-2172
後援 公益社団法人 土木学会中部支部

・「大きな人口を抱える都市自体も流域圏の「いいとこどり」で成り立っている存在なのではないか、そのことを意識して山を見なければならぬだろう。山の管理だけでなく、海もそうだ。上流の都市（だけではないが）が経済的で便利・快適、効率的な暮らしをするための代償として、大量のプラスチックごみを受け入れることとなる。誰が本当にそれを負担すべきなのだろうか。」（流域圏担い手づくり事例集Ⅳ、p40）

【2023年度海編の事例集について】

- ・冒頭、以下について寄稿いただく ~昨今海部会で話題となっている貧栄養の問題について~
 - ①青木伸一座長に「伊勢湾など海の現状について」(仮題)
 - ②鈴木輝明さんに「三河湾の現状について」(仮題)

- ・取材先について(取材日)
 - ①愛知県水産試験場(調整中)
 - ②三重県水産研究所(調整中)
 - ③鳥羽市水産研究所 岩尾豊紀所長(1/24 13時~ 取材 参加者募集中!)
(藻類に関する研究、海域の観測、海洋教育への協力、多分野連携による産業振興等に取り組む)
 - ④三重県鳥羽氏立海の博物館 平賀大蔵館長(調整中)
 - ⑤鳥羽市長 中村欣一郎氏(9/28済)
(鳥羽の海に伊勢湾の豊かさと、ごみの漂着など環境問題が集約されていることを認識。
協働による環境改善と観光振興の両立をめざす)

- ・その他、寄稿について
 - ①蔵治光一郎(山部会座長)に「山と海の対立構造にはならない」(仮題)
 - ②近藤朗 奈佐の浜プロジェクト委員会事務局長が「海岸漂着ごみ問題について」関係者取材などをまとめる

- ・今後、取材の日程が確定でき次第、事例集用のメーリングリストにて取材に同行したい方を募集する。
事例集メーリングリストへの加入希望者は、事務局補佐まで連絡。

